

1	単元名	1課 挨拶	1 / 2
---	-----	-------	-------

## 1 単元目標 簡単な挨拶や返事ができる

## 2 単元の指導内容（本時 1 / 2）

課	単元	指導内容	主な表現と語彙（例）	字
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶と返事</li> <li>自分の名前</li> </ul>	「おはよう」「こんにちは」 「ありがとう」「ごめんなさい」 自己紹介	自分の名前
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な表現での返事</li> <li>平仮名の読み書き</li> </ul>	「わかる・わからない」 「いい・だめ」 「せんせい、トイレ（水）、いい？」 1・2・・・4・5	し・あ い・う

## 3 本時の指導目標

- 簡単な挨拶や返事ができるようにする。
- 見本を見ながら、自分の名前を読んだり書いたりできるようにする。

## 4 指導のポイント

- 場面を考えて、挨拶をさせる。
- 見本を見ながら、自分の名前を書く練習をさせる。

## 5 アクティビティ（活動）の方法及び留意点

### 【活動】

- 「はいはいゲーム」（複数の児童・生徒を対象とした際に有効）  
その場に複数の児童・生徒がいた場合、「〇〇さん」「はい」、とそれぞれの顔を見て名前を呼ぶ。それができたら、役割を交替する。また、顔の向きと呼ぶ名前を違えて返事をさせると、ゲームのような感覚で練習できる。

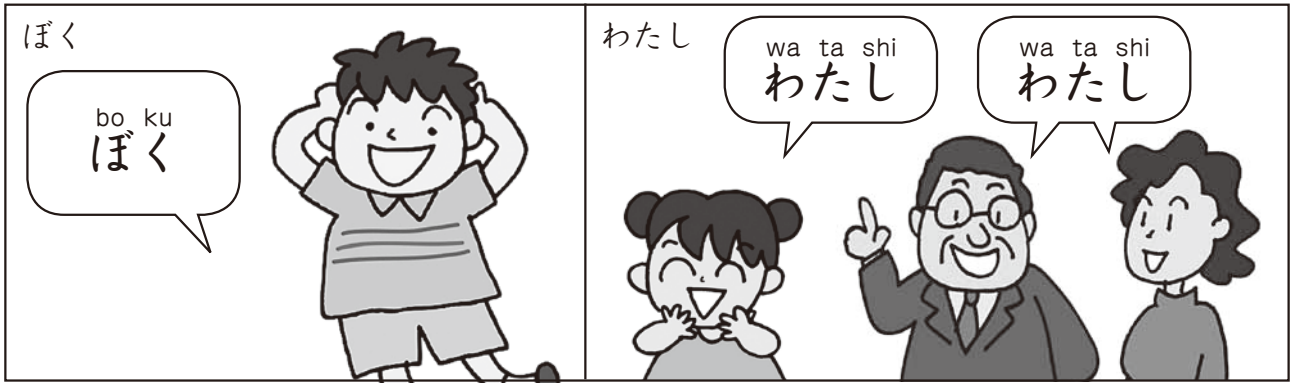
### 【留意点】

- 教師が言う言葉を、児童・生徒が繰り返す復唱の練習では、教師が見本になる言葉、例えば「おはよう」と言い、手のひらを児童・生徒に向けて、顔の横で小さい声で「おはよう」とささやくと、繰り返すのだと理解できる。これが分かれば、教師が何か言って手のひらを児童・生徒に向けるだけで復唱する練習であることを理解させることができる。
- 理解語彙と表現語彙  
「来て、見て」などのように、理解して反応できればよい語彙「理解語彙」と、「おなか、いたい」などのように自分が発話（表現）できるところまで目指すべき「表現語彙」がある。教師は指導する言葉が「理解語彙」と「表現語彙」のどちらであるかを認識した上で、意図的にその言葉を用いる場面を設定する。

## 6 本時の展開

	学習内容	指導内容等	留意点・教材
挨拶	「こんにちは」 「おはようございます」	・教師の後について言う。	・「おはようございます」は「おはよう・ございます」の2フレーズに分ける。
活動1	表現① 「わたしは、〇〇です。」  「〇〇さん」「はい」  「よろしくおねがいます。」	・教師が黒板に児童・生徒の分かる文字で自分の名前を書いて「私は、〇先生です。」と言う。次に、児童・生徒に手のひらで返事を促し、「私は？」と尋ねる。児童・生徒が理解したら、「〇さん？」と尋ねるジェスチャーをし、肯定したら「〇さん」と呼び、「いい、Good、母語の「いい」等」で誉める。 ・教師が自分を指し、「〇先生」といい、児童・生徒にジェスチャーで「〇先生」と言わせる。言えたら、挙手して「はい」と答え、名前を呼ばれたら答える場面を理解させる。 ・「私は、〇先生です。」の後に児童・生徒に「私は、〇です。」と復唱させる。「私は〇先生です。よろしくおねがいます。」と言い、児童・生徒に自分の名前を入れて言わせる。	・日本語の発音に慣れさせる。 ・児童・生徒が自主的に母語でノートに書いたら、それも認める。  ・この場面で児童・生徒がどのように呼ばれたいか確認する。 ・絵や「はいはいゲーム」を活用する。  ・「よろしくおねがいます。」は低学年の児童には省略してよい。
活動2	表現② 「おはよう（ございます）・こんにちは（ごめんなさい）」	・「おはよう（ございます）・こんにちは（ごめんなさい）」を絵を見せて場面を理解させ、絵をめくりながら言わせる。	・絵を用いる。 ・繰り返し練習をさせる。
活動3	文字 自分の名前を書く。	・児童・生徒の名前を板書し、「〇〇」と読み上げ、自分の名前を日本語の文字ではこう書くことを理解させる。 ・練習帳で書く練習をさせる。	【発展】色々な名前を書いたカードから、自分の名前を選ばせる。 【宿題】名前の練習

# 7 教材・ワークシート




## あいさつ




「です・ます」の発音：日本語では、文末などの母音を無声化して発音しています。  
 「です・ます」は、発音上「des・mas」なので、ルビは「des(u)・mas(u)」としています。

wa ta shi wa      bo ku wa      de s(u)  
 わたしは／ぼくは、\_\_\_\_\_です。

yo ro shi ku      o ne ga i shi ma s(u)  
 よろしく おねがいます。



ka ra  
 \_\_\_\_\_から  
 ki ma shi ta  
 きました。



(※発展表現)

watashi no namae  
 わたし の なまえ

(教師は、一番上の行に学習者の名前をひらがなかカタカナで書いてあげてください。)


- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25
- 26
- 27
- 28
- 29
- 30